

# 保健師

## ルポ

人と自然が共生する町

令和4年1月末現在の総人口は6729人、高齢化率は41・4%となっています。

喜界町は、奄美大島本島の東北端北緯28度20分、東経130度の地点にあり、鹿児島港から368km、奄美大島本島から最短距離で24kmの洋上にあります。南南西から北東に長く14km、東西の幅は最長7・75km、周囲約50kmの島です。集落は海岸線に沿って展開し、各集落の背部は農耕地となり、東南から南北に走る百之台丘陵に連なります。亜熱帯性・海洋性の温暖で豊かな自然環境を有し、世界でも有数の速さで隆起するサンゴ礁の島であり、オオゴマダラやアサギマダラなど数多くの蝶が飛び交う優れた自然風景の美しい島です。また、日本一の生産量を誇る白ゴマ、島固有の在来種である柑橘類やソラマメなど豊かな農業資源も有しています。

喜界町役場ではチーム制を導入しており、保健福祉課には、保険チーム、福祉チーム、包括保健チームがあります。保健師は4名全員が包括保健チームに配置されています。チームにはチームリーダー兼地域包括支援センター長1名、事務2名、看護師3名、管理栄養士1名、主任介護支援専門員3名、介護支援専門員1名が配置されており、それぞれの専門性を生かし、子どもから高齢者までの支援を行っています。(令和4年4月1日現在)新型コロナウイルス関連の業務も担当しており、ワクチン接種は、保健福祉課を中心に庁舎内職員の多くの協力体制のもと、実施することができています。感染拡大により、各種健(検)診や保健事業、各種教室、地域包括支援センター業務等も中止や延期などの影響を受けました。その中でも様々な工夫をしながら、事業に取り組んでいます。

### 課内・地域の連携で健康増進

特定健診は、がん検診と組み合わせた集団の複合健診を中心に、町内の医療機関での個別健診も行っていま



見渡す限り一面に広がるさとうきび畑の中の一歩道

保健福祉課の皆さん(筆者前列右3人目)

## 老いも若きも 支え支えられるまちを目指して

喜界町 保健福祉課 包括保健チーム 保健師 岡田 史子



食を通じた健康づくりを推進する食生活改善推進員の活動の様子

す。受診率をあげるため国保担当と健康増進担当で協力して、AIを活用した受診勧奨に取り組んでいます。また健康づくり推進員による40歳の方への受診勧奨訪問を行い、地域の方の声かけを推進しています。(昨年度は感染対策のため未実施)

特定保健指導は管理栄養士・保健師が主となり実施しています。初回面接の実施率をあげるため、結果報告会との同時実施とし、待ち時間を少なくする工夫を行っています。

地域との連携では、10名の食生活改善推進員が地域の中で、食を通じた健康づくりを推進しています。令和3年度には、管理栄養士が養成講座を開催し、新たに5名の食生活改善推進員が誕生しました。今後さら

に活躍の場を広げていただきたいと期待しています。

### 連携で親子に寄り添う支援

母子保健分野は、保健師2名が主となつて担当しており、女性の健康から妊娠・出産、育児相談、療育関連まで幅広くサポートを行っています。新生児訪問から乳幼児健診、その後のフォローをなどで、節目ごとに子どもたちと顔を合わせることで、成長の様子や家庭の状況なども把握しやすく、人口規模の小さな島ならではの強みです。また、島内の産婦人科・小児科の医療機関、庁舎内にある教育委員会や、町営の療育施設や幼稚園、保育園、家庭児童相談員さんなどとは、顔の見える関係で連携もとりやすくなっています。医療機関とは、支援が必要な妊婦さんなどについて連携を図り、支援を行ったり、協働で両親学級を開催したりしています。また、教育委員会の指導主事と連携し、就学前の連携の体制を整えています。療育施設の保育士とは、親子教室での協力体制があり、幼稚園・保育園とも連携し、療育を必要とする子どもへの支援を一緒に行っています。また、地域には12名の母子保健推進員がおり、健診等の案内配布や子育て家庭へ

の声かけを行ってもらっています。



乳幼児健診の様子

### 心豊かに健康で安心して暮らす

地域包括支援センターでは、人口減少が進む中、限られた地域資源を人材を生かし地域包括ケアを推進していくため「つながる、つなげる」を大切にしています。小さなまちの強みは「顔が見える関係性」です。認知症の方の「ちょっと気になる」情報が地域の方から寄せられると認知症支援推進員を中心に民生委員、事業所、社会福祉協議会、警察、バス会社まで巻き込んで地域ケア会議を開催し見守り体制を確認しています。こんな風に目の前の住民さんのためにできることをコツコツ積み上げ、住み続け

られるまちづくりにつながるようにがんばっています。

本町の要介護認定率は県内でも低い状況にあり、畑で野菜を作ったり、ゲートボールやグラウンドゴルフを楽しんで元気な高齢者の姿が目立ちます。一方、若い年代のメタボ該当率が高く、高血圧の医療費は常に上位にある状況です。また、高血糖の有所見者も増加傾向にあります。特に男性の早世率が高く、今後がさらに心配な状況があります。

令和4年度からは喜界町でも高齢者の保健事業と介護予防事業の一体的実施事業が始まります。課内をはじめ関係機関・地域のみなさんと協力し、心豊かに健康で安心して暮らせる喜界町を目指していきたいと思っています。



天然の入り江を利用した海水浴場「スグラビーチ」